

水俣病に考える

(9)

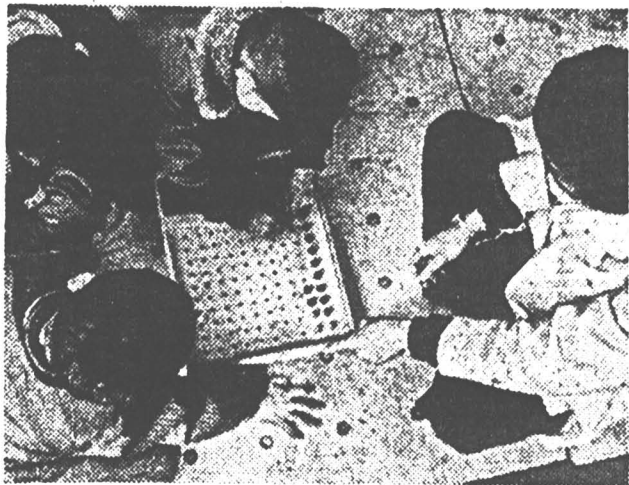
「二つ、二つ、三つ……ほら十
もできた」「こんどはボクがや
るよ」玉さし盤に向かうA君の指

地元での療法

は五、六個まではどう
やら幅調。だがあとほ
なかなか思うように指
が動かない。何度やっ
てもダメ。この玉さし
盤は指の機能訓練のひ
とつた。タテ四十センチ、
ヨコ三十センチのチェス
(西洋将棋)に似た盤
には百個の穴があいて
いる。この穴に玉をひ
とつずつ突きさしていくもの。簡
単なようだが指先の自由がきかな
い患者にとつては困難だ。三十
秒単位で十五個さしたのがこれま
での最高。ひとつもできない者も
いる。水俣病患者千一人を収容
している水俣市立病院では、さる
一月末から「機能訓練室」をつく
った。

池田孝彦療法士(機能訓練士の

もある。フレンケル氏の失調歩行
訓練法で、膝・ラインに両足をそ
まへ、つぎの線に片足を踏み出し
てかかとをつくる。ついで指先
か立てなかつたおはあさん、い



玉さし盤で指先の訓練、軽い症状の子供たちの回復は
早くだいぶからだの自由がきくようになった。

指導で、患者たちは毎日訓練を続
けている。このほか「歩行訓練」
る。この方法を繰り返すもので、
体重をかけ、あとの足をそろえ

までは三十秒以上も立てるとい
う。身体の不自由なものにとつ
て、治療と訓練は車の両輪。どち
らが欠けても回復は望めない。
有機水銀による中毒症状一原因
がわかってからも特効的な治療法

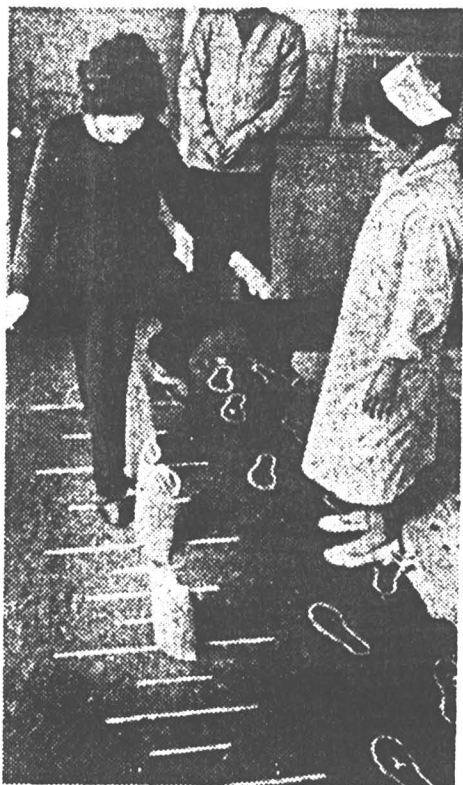
根気よく機能訓練

温泉治療も合わせて

はなかつた。三十四年七月、市立
病院内に水俣病特別病棟が完成し
た。それまで学用患者として難大
で治療を受けていた患者は、全員
この病棟に収容された。腫肝病、
ヒタミン、細胞脳病などの投薬

する。また目立つた効果はない
だがわずかながらも良くなってい
く。別府の九大温研の研究治療によ
つて、泥浴と飲泉の効果が現われ
た。水俣でもさうそう温泉療法が
採用された。入院患者たちは一日
おきに湯の鬼の岩崎荘に出かけ
る。ここで温泉に入浴して治療を
受ける。また目立つた効果はない
だがわずかながらも良くなってい

によって、水俣の体外排せつ(解毒
作用)に治療の重点がおかれた。
米国からEDTAカルシウム、パ
ールなどの新薬も取り寄せられ
た。外科専門の大橋院長、内科専
攻の三浦副院長をはじめ、内科、
外科、小児科、産婦人科など十科
の医師たちは、チームワークをと
り、それぞれの専門を生かしながら
治療と訓練を続けてきた。
胸細胞をおかされたら再生しな
いというのが医学の常識。しかし
治療と訓練によって復活はして
くる。治療による水俣の体外排せ
つ。訓練によって神経の末しょう
(樹)部分のマヒもとれる。意識
不明のまま入院してきた患者で、
いまでは外見は少しも病人らしく
ない人もいる。発病当時のままで
少しも変わっていない人もある。
けられていく。



一步、また一步。絶えず欠かさず毎日歩行訓練は続けられる。